

特色ある学校

地域の産業界との連携によるキャリア教育の推進

「川口若手ものづくり人材育成プロジェクト」の取組

埼玉県立川口工業高等学校長 一谷 記由

1. はじめに

本校は、昭和12年4月10日に埼玉県立川口工業学校（機械課程）として開校した。その後の制度改革により、昭和23年4月1日に埼玉県立川口工業高等学校と名称を変え、現在に至っている。昭和53年からは定時制課程を併設した。現在、全日制は機械科、電気科、情報通信科の3学科6クラス、定時制は工業技術科2クラスが設置されており、「勤労、創造、誠実」の校訓のもと、今年創立78年目を迎える男女共学の工業高校である。

本校のある川口市は、東京都に隣接する埼玉県南部の「産業の街」として、古くから鋳物と植木（安行地区）で知られている。JR川口駅前を中心に再開発事業が進められ、平成15年に「さいたま新産業拠点（SKIPシティ）」がオープンし、「映像の街」としても動きだした。「産業の街」とともに、「新しい生活空間の整う街」としても歩み続けている。

2. 本プロジェクト発足の経緯

埼玉県では、平成19年度から21年度にかけて、文部科学省「ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業」と経済産業省「工業高校実践教育導入事業」との共同事業に参画し、さいたま地域、熊谷地域、狭山地域、川口地域の4拠点で事業を実施した。

川口地域では川口商工会議所を中心に、川口鋳物工業協同組合、川口機械工業協同組合、埼玉県産業技術総合センター、川口高等技術専門校、川口名匠会等と本校との連携により、企業

技術者の特別授業、インターンシップ（協力企業34社）、企業見学等を実施した。

この事業終了後に、平成22年度全国中小企業団体中央会「ものづくり分野人材育成・確保事業」補助金に採択され、川口地域単独での事業として再スタートした。

平成23年度には、川口商工会議所、川口鋳物工業協同組合、川口機械工業協同組合、本校の四者で協定を締結し、各者が費用負担をして、地域活性化を目指した教育プログラムを実施した。平成24年度からは、川口市（経済部・教育局）の事業補助を得て事業を充実発展させ、現在のプロジェクトとなった。

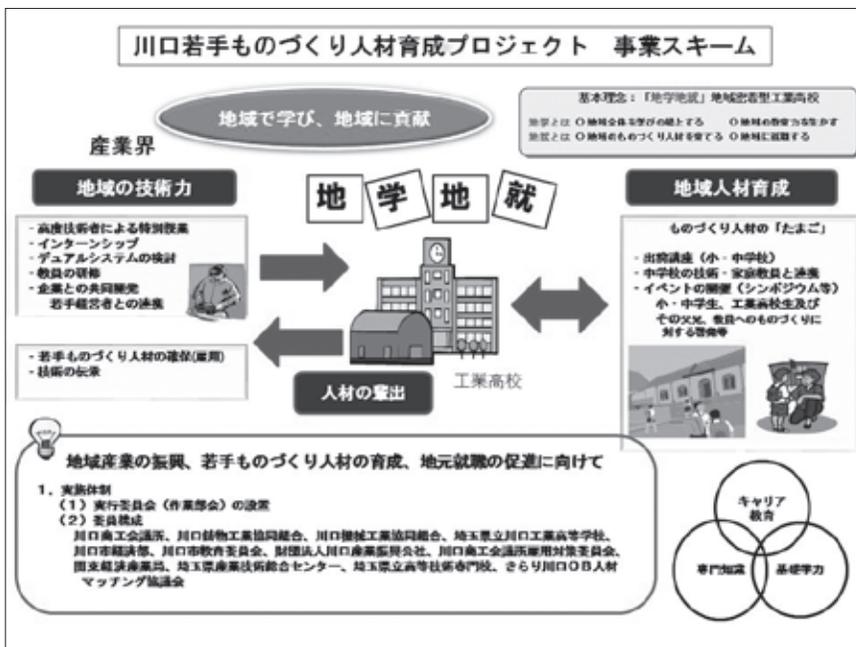
3. 本プロジェクトと本校の取組

川口市は埼玉県で最も中小製造業者が多く、多種多業種が集積した都市であり、東京都の大田区や墨田区、大阪府の東大阪市などと並び、ものづくり産業の底辺を支えている街である。

平成19年度から市内の関係機関が連携し、地域全体を学びの場として産業資源を地域のものづくり教育に生かし、「地学地就」を目的に産業人材育成に取り組んでいる。

「地学地就」の「地学」とは、地域全体を学びの場とし、地域の資源を教育に生かすこと、「地就」とは、地域でものづくり人材を育て地域に就職して地域産業の活性化に貢献することを目指したものである。本校は、この「地学地就」を基本理念とし、地域密着型の工業高校づくりを推進している。

本プロジェクトでは、毎年、実行委員会（作



川口若手ものづくり人材育成プロジェクトの事業スキーム図

業部会)を設置して、事業を推進している。なお、平成26年度予算規模は210万円である(5団体で分担)。

委員は、川口商工会議所、川口鋳物工業協同組合、川口機械工業協同組合、本校、川口市経済部、川口市教育委員会、財団法人川口産業振興公社、川口商工会議所雇用対策委員会、関東経済産業局、埼玉県産業技術総合センター、埼玉県立高等技術専門学校、さらに川口OB人材マッチング協議会で構成されている。

以下に、主な取組内容を示す。

(1) インターンシップ

望ましい職業観・労働観の育成を目指して、2学年の全生徒を対象に、毎年11月に企業における3日間のインターンシップを実施している。受け入れ企業は、川口市内の企業を中心として、平成25年度は75社、26年度は83社にご協力いただいた。私を含め、全教職員が1人2社を担当し、連携を深めている。

(2) プレ・インターンシップ

インターンシップに先がけて、1学年の全生

徒を対象とし、1月に半日間の企業見学を実施している。生徒が自ら企業訪問をし、ご指導をいただいている。なお、受け入れ企業との連絡担当は、インターンシップと同様である。

(3) 高度熟練技能者による特別授業

高度熟練技能者のもつ高い技術・技能を生徒に伝承するとともに、生徒の技能習得意欲の向上を目指して実施している。平成26年度は延べ18回実施した。

授業の内訳は、機械科1年に旋盤、溶接、板金、塗装、電気科1年に半田付け、機械科2年に旋盤、情報通信科2年にインターネット市場につ



インターンシップの1コマ



高度熟練技能者による特別授業の 1 コマ

いてである。生徒たちは、それぞれの分野で、技術・技能の奥深さを体感している。

(4) 親子でものづくり体験ツアー(たまご事業)

川口市内の小・中学生とその保護者を対象に、ものづくり体験と工場見学をセットにしたツアーを実施している。ものづくりのたまご育成の意味を込めて「たまご事業」と呼んでいる。

毎年11月14日の県民の日に、本校の教員・生徒が7コースの制作体験の指導を行うとともに、バス移動で市内6工場の見学に回る。

(5) 教員研修

授業力の向上を図るため、本校教員を対象としたインターンシップや、市内の製造メーカーにおける工業科初任者研修を実施した。

(6) 中学校技術家庭科教員との連携

ものづくり人材育成事業に対する啓蒙活動の1つとして、市内中学校の教員に対し、本校教員が教材開発等(風力エネルギー変換に関する技術)でものづくり指導を行うことで中高連携を深めたり、中学校への出前授業を行っている。あわせて、中学生対象の発電コンテストを実施



「たまご事業」の 1 コマ



風力発電コンテストの 1 コマ

し、ものづくり人材の育成を図っている。

(7) その他

川口市立科学館及び本校において、本校の教員・生徒が、小・中学生を対象としたロボット製作に関する3講座を開催し、その制作したロボットによるコンテストを実施している。

- ① キャリアロボット製作
- ② ライトレースロボット製作
- ③ ペットボトルソーラーカー製作

受講した小・中学生は自分自身で調整を行い、コンテストに参加する。成功することも失敗することもあるが、自分自身の努力の成果が現れることを体験し、充実感を味わっている。



ペットボトルソーラーカー製作の 1 コマ

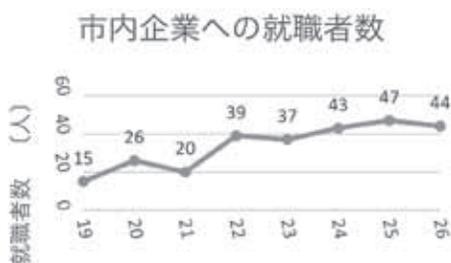
4. 成果として

(1) 市内企業への就職者数の変化

本プロジェクトの実施に伴い、本校における市内企業への就職者が増加してきており、「地学地就」の成果があがってきている。

(2) 企業からのメッセージ

- ① 子供の頃、私達はものづくり現場を身近に



感じていました。しかしながら、現在環境問題等で町工場の中の様子を見る事ができません。そういった意味で、高校生を対象とした実践的な技術指導や地元の子供達を対象としたものづくりに対する啓発事業を実施する本プロジェクトは、将来のものづくり人材の育成にとても役立つものと確信しています。これから就職を迎える生徒には、是非、良い「人柄」を形成し、何でも良いから人に負けないものを身につけていただきたいと思います。

② 学校の授業では教えられない現場の技術や雰囲気を実践的に指導する特別授業や、生徒が実際に企業の現場を体験するインターンシップやプレ・インターンシップ等、生徒にとって必ず役に立つプログラムだと思います。将来的なビジョンを持っている生徒も、持っていない生徒も、まずは色々な現場や技術をその目で見るとして知る。ビジョンさえ持てれば、普段の授業の重要さに気付く事でしょう。本プロジェクトは、産業界、教育界そして行政等が連携し、そのような機会を生徒に与える事ができます。

(3) キャリア教育推進連携事業最優秀賞を受賞
文部科学省・経済産業省共催「キャリア教育推進連携事業」表彰において、本プロジェクトが平成26年度の最優秀賞を賜った。

これまで、地域の方々のご協力をいただきながら進めてきた本プロジェクトの大きな成果であると考えている。

(4) その他

① インターンシップ等を円滑に実施



「キャリア教育推進連携事業」表彰式

- ② 技術の伝承に係る授業を円滑に実施
- ③ 入試の応募状況の改善
- ④ 小・中学生への技術教育の振興
- ⑤ 地域との連携強化と本校PRの充実

5. おわりに

本プロジェクトは、産業界と行政、教育機関が連携して推進してきたものである。

工業高校生を対象とした実践的な教育プログラムによって、若手ものづくり人材の育成、地域産業の振興、地元への就職促進の点で大きな成果が得られた。地域と連携して進めてきた本プロジェクトによって、かつての本校のイメージを刷新し、地域へのアピールができてきているものと思われる。今後も本プロジェクトを継続していく必要性を感じており、現在も全力で取り組んでいる。今年度は本プロジェクト発足5年目を迎え、教職員の負担軽減を含めた課題の検討を行い、地域密着型工業高校として、来る80周年を迎えられるよう努めていきたい。

なお、プロジェクト実行委員会（作業部会）では、社会人（一般事業者の技術者）等を対象としたカリキュラム作成、人材登録制度など「(仮称)ものづくり人材育成センター」の概念を検討し、小学生から社会人までの全階層を網羅した若手ものづくり人材育成の教育システム構築を目指している。

今後も、地域との連携をより一層深め、「ものづくり工業立国日本」を支える人材育成に貢献できるよう努めてまいりたい。